



地域ブロック情報

日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。各地域ブロックの活動について順次ご紹介していきます。今号は、関東地域ブロックと中部地域ブロックをとりあげます。

関東地域ブロック から

関東地域ブロック担当理事
高山 直樹（東洋大学）

一般社団法人日本社会福祉学会・関東地域ブロック部会（略称：関東部会）は、日本社会福祉学会の地域ブロック支部の一つで、関東地域ブロックに所属する会員によって構成されています。現在関東部会は、1821名（名誉会員含む）の会員からなるもっとも会員数の多い部会となっています。

主な活動としては、研究大会があり、今年度は2016年3月13日（日）東洋大学白山キャンパスにおいて開催されます。大会テーマは、「ソーシャルアクションと社会的企業—社会福祉学のイノベーションに向けて—」と決まりました。昨年度のテーマは、「社会福祉学研究と実践の新たな枠組み—ソーシャルアクションを志向する研究・実践に求められるもの—」でありました。これを発展させるために今年度は、さまざまな社会問題に対して、おもにビジネスの手法を用いて解決しようとする社会的企業や社会的起業といった動きが活発化してきている流れのなかで、社会福祉学やソーシャルワークは、これらとどのように有機的な関係をつくり、研究をしていく必要があるのかを議論していきたいという目的で大会を企画しています。基調講演は、立教大学コミュニティ福祉学部教授の藤井敦史先生に、現在の「社会的企業」の国内外の動向について、包括的にご講演いただくことになりました。また社会的企業を先駆的に行っている方々とのシンポジウムも企画しております。現在運営委員会によって企画を詰めています。大会の詳細の内容に関しましては、近日中に、ホームページ等でお知らせいたします。

また2013年度の研究大会から、自由研究報告演題を対象に「研究大会奨励賞」が創設されました。若手研究者・実践家の会員を中心に、研究大会の自由研究報告に積極的にご応募いただきたくお願いいたします。

機関誌としては、『社会福祉学評論』を電子ジャーナルとして発行しています。投稿時期は随時であり、2名の査読委員による教育的な査読の結果、掲載可となれば、速やかに電子ジャーナル上で公開されます。掲載された論文は、データベースに登録されます。特に若手研究者・実践家の方の投稿を歓迎いたします。

上記活動に加えて、ニューズレターの発行、関東地域ブロックで行われる公開講座・講演会、博士論文公開審査、最終講義等の情報提供、社会福祉学専攻協議会大学院生協議会との連携活動を行っています。

このように関東部会はこれまで若手研究者・実践家の研究活動の活性化と研究交流の促進を旨とした活動を進めてきました。会員の皆さまに積極的にご参加、ご関与いただき、部会活動をさらに活性化して参りたいと思います。ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

中部地域ブロック から

中部地域ブロック担当理事
柴田 謙治(金城学院大学)

筆者が中部地域ブロックの担当理事を拝命したのは、2012年10月20日(土)に関西学院大学で開催された、日本社会福祉学会第60回秋季大会の総会で、任期中には2014年度と2015年度の研究例会の準備をさせていただきました。

2014年度の研究例会は、2014年4月19日(土)に日本福祉大学名古屋キャンパスで開催されました。午前中には自由研究発表が5本おこなわれ、並行して開催された「大学院生・若手研究者のための勉強会」では、伊藤美智予会員(日本福祉大学健康社会研究センター主任研究員=当時)から「私の研究ポートフォリオ—修士課程から現在までの研究プロセス—」という発題がありました。

午後には、シンポジウム「差別・スティグマの今日的課題—障害者差別解消法と生活保護から考える」を開催し、大曾根寛会員(放送大学)、近藤佑次氏(愛知 TRY2013 実行委員長=当時)、山田壮志郎会員(日本福祉大学)の3人に、シンポジストとして発題していただき、柴田謙治がコーディネーターをさせていただきました。40人を超える会員に、ご参加いただきました。

2014年度と2015年度の研究例会の間には、例年がない企画も実施できました。金城学院大学で第11回日本社会福祉学会フォーラム(2015年2月8日(日)13:00~17:00)を共催することになったため、この機会を活用させていただき、2014年度には年度内第2回目の「大学院生・若手研究者のための勉強会」を開催することができたのです。谷口由希子会員による趣旨説明の後、林祐介会員(名南ふれあい病院)、上村勇夫日本社会福祉学会会員(日本社会事業大学)から「私の研究方法の紹介」というタイトルでご発題き、その後岩田正美日本社会福祉学会会長(日本女子大学教授=当時、現在は日本女子大学名誉教授)から「若手研究者に向けたメッセージ」をいただきました。司会は山田壮志郎会員(日本福祉大学)でした。

午後には第11回日本社会福祉学会フォーラム「地域包括ケアシステム構築の論点」を開催しました。詳細については既にご報告させていただきましたが、139人の参加者にお越しいただいたのは、ありがたいことでした。

2015年度の研究例会は2015年4月18日(土)に、日本福祉大学東海キャンパスで開催されまし

た。午前には「大学院生・若手研究者のための勉強会」を開催し、鶴田禎人(同朋大学社会福祉学部)から「私の研究方法の紹介」というご発題をいただきました。その後自由研究発表が5本おこなわれ、昼食をはさんで、シンポジウム「子どもの貧困と教育福祉」をおこないました。

シンポジウムでは、中嶋哲彦先生(名古屋大学大学院教授)、田中良三会員(愛知県立大学名誉教授)、野尻紀恵会員(日本福祉大学)にご発題いただき、柴田謙治がコーディネーターをさせていただきました。参加者は60名でした。

筆者の任期中に、一時期よりも、研究例会等の参加者が増えたのは、非常にありがたいことです。ブロック部会の会員への一斉送信メールなどをフル活用したこともあります。常任幹事会の皆様が常任幹事会に出席し、知恵を出し、役割を分担して、協力して下さったおかげです。また機関誌の「中部社会福祉学研究」の第5号と第6号を遅滞なく発行できたのは、編集委員会の皆様のおかげです。この上昇機運を保てるように、残された任期もがんばりたいと思います。